

先入観で部下と接してはならない！

とにかく、我々人間が陥り易いことに、人を先入観で見がちです。“あいつは良い奴だ” “あいつは仕事がロクにできない奴だ” と、一旦決めつけると、どうしても一方的な見方で決めつけてしまう事が多々あります。“良い奴” とみた場合は、その人の態度・行動の大半を好意的に捉えて『そこがあいつの良いところなんだ…』とばかり全てを良い方にとらえがちですが、反対に日頃から“イヤな奴” と見ている場合は、例え、同じことをやっても否定的に見がちなものです。

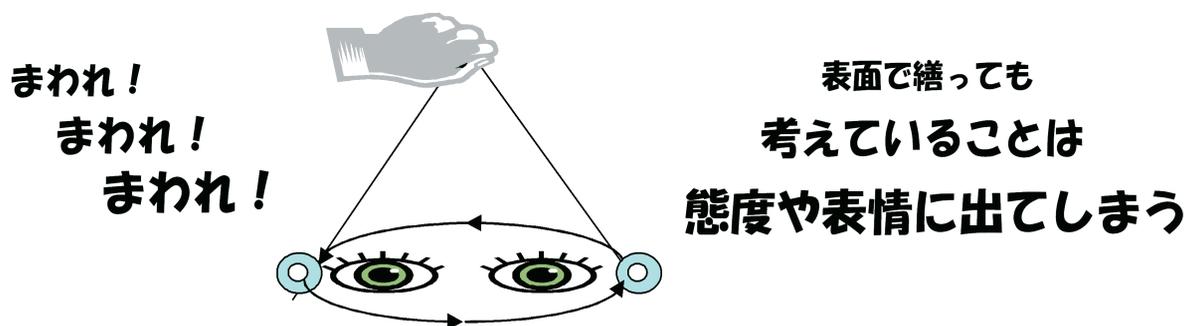
しかし、ここで一度立ち止まって、自分を冷静に分析してみませんか…？ あなた自身が、全ての部下にレッテルを貼ることなく、フェアな視線で見ているだろうか…？ と！ 人間、誰しも全てに完璧な人は存在しません。どこか良いところがあれば、悪いところも同時に兼ね備えている生き物である以上、何から何まで良いところを備えていることもなければ、反対に、全てに悪いところを持つ人間は存在しないものです。どこか良いところもあれば、どこかに欠陥を持つのが人間なのです。全てに完璧な人間は、およそ、この世に存在しないと言ってもよいでしょう！

そして、一旦、山田に入社したならば、誰一人として無駄な人間は居ないということ。従業員の全てが何らかの役割を担い、機能している以上、彼は有用だが、彼は無駄だ！ という見方をしてはいけません！ 少なくとも管理職の皆さんは、山田の誰もが有用なのだ！ という考えに立って人を見るようにしたいものです。へそ曲がりにはへそ曲がり、通常とは異なる視点で物事を捉えてくれるし、理屈っぽい人や行動的な人の全てが山田には必要なんだ！ ということを認識してほしいと思います。

確かに大勢の人が働いている訳ですから、中には、相性の合う人や、合わない人が居る場合もあるでしょう！ しかし、管理職の皆さんは、私人である前に公人であることを忘れてはなりません。私人としての好き嫌いで、公職たる管理職業務をやってはならないのです。全ての先入観を捨て誰彼となく、同じ姿勢・態度で臨むことが大切です。

ここで、次の実験をやってみましょう。図のように、5円玉に25センチ程度の糸を括り、その先端を利き手の指で挟んで、念じてください。5円玉を目の高さに置き、回れ回れと念じれば5円玉は間違いなく回り始め、左右に左右にと念じれば、左右に振れてくるのが体験できます。このように、いくら表面の態度で別のことを言おうとも、自ら考えていることは、念じることが指先に伝わるのと同様に表情や態度に現れてしまうものなのです。

公人たる管理職は、常に、心底同じ目線で公平に部下と接することが求められます！



ワンポイントアドバイス

私も皆さんも新入社員から始まり、今日の姿・立場があります。かつて上司や先輩は私達の長所・短所を親て育ててくれました。人として当たり前ですが、今度はお返しをしませんか!?